

# HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第2660地区)

WEEKLY BULLETIN

No. 40

## 東大阪中央ロータリークラブ

創立 昭和47年2月20日  
例会日 毎週月曜日 12:30~  
例会場所 シェラトン都ホテル大阪  
事務所 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-38  
〒543-0027 ロイヤルパークス桃坂1112号  
TEL. 06(6772)2320  
FAX. 06(6772)2327  
E-mail:hrcr@at.wakwak.com



会長 佐藤 三千秋  
会長エレクト 百 濟 洋 一  
副会長 和田栗 一 良  
幹事 大 畑 齊  
会報委員長 宮 崎 康 治

## MAKE DREAMS REAL 夢をかたちに

2008~2009年度 国際ロータリー会長 D. K. リー

第1729回例会 平成21年6月15日(月曜日) 第40号

### 本日の例会

6月15日(月) 第3例会

- ◎ソング 「四つのテスト」  
◎卓話 「東大阪の経済あれこれ」  
ゲストスピーカー  
東大阪市健康福祉局 健康部  
部長 木村 潤一様  
(担当: 中村與志夫会員)  
◎本日の献立 フランス料理

### 次回の例会

6月22日(月) 第4例会

- ◎卓話 「会長年度末挨拶」  
佐藤三千秋会長  
◎本日の献立 ブッフェ  
◎6月29日(月) 定款による特別休会

### 先週の例会記録

6月8日(月) 第2例会

### 会長挨拶

会長 佐藤三千秋

2008~2009年度の例会も本日を含め後3回となりました。地区からの報告・連絡事項も本当に少なくなり、完全に次年度の準備に入っているようです。

毎例会での会長挨拶ということで、会長の時間を頂いて、この時間にRIまたは2660地区からの情報を、会員皆様に会長から伝えること、またロータリーについて話すことになっていますが、振

り返してみると土曜・日曜に気になって話すことをまとめようとするのですが、思うようにいかず、皆さんに面映い思いをさせたことを反省しています。それにしても当クラブの歴代の会長さん達は立派に会長の時間を務められたことに、あらためて敬意を表する次第です。

先週のゲストスピーカーの江田愛子さんより瀧田会員に、ミャンマーの現状を卓話で皆さんに聞いて頂いたこと、またミャンマーの復興のために「子ども教育支援」をして頂いたことに対する礼状が参りました。自筆で書かれた封書に感謝の言葉がしたためられていて、感謝の気持ちがよく表れていました。

### 幹事報告

幹事 三木武志

1. 今年度、各委員会委員長には活動報告書の提出をお願い致します。次年度、各委員会委員長には概況報告書用活動計画書の提出をお願い致します。
2. 今週6月11日(木) 第4回情報集会を銀座アスターにて6時から開催致します。
3. 来週6月15日(月)、例会場が3階金剛の間に変更になりますので、お間違いのないようお願い致します。

### 出席報告

岡田委員

本日の会員数  
本日の出席者数

43名  
28名

本日の出席規定適用免除会員 16名  
本日の出席率 75.68%  
5月25日の修正出席率 88.57%

## SAAニコニコ箱

松浦副SAA

藤原会員 ゴルフ同好会でお世話になりました。  
岩崎会員 今期、親睦活動にご協力頂きありがとうございました。  
松岡会員 今期も残りわずかです。お世話になって居ります。  
小川会員 ゴルフ同好会に優勝させて頂きありがとうございました。

## 委員会報告

### 親睦委員会

委員長 岩崎史郎

第4回ゴルフ同好会を6月4日(木)奈良柳生カントリークラブにて行いました。多数の参加を頂き有難う御座いました。晴天の中、日頃の腕前を十分に発揮されたことと思います。成績の発表を行います。

優勝 小川 高弘  
準優勝 藤原 英夫  
第3位 宮田 照男

ベスグロ賞は、OUT39、IN38のグロス77の藤原様でした。

## 卓話 「経営について考える」

—日本経営品質賞ってご存知ですか?—  
岩橋俊之

皆さんはゴルフでスライスをする「グリップ」「体の開き」「スタンス」等、スライスの原因について様々な角度からチェックし、スライス解決に向けた努力をするのではないのでしょうか?ではなぜ、スライスの原因を自分なりに判断できるのでしょうか?それはゴルフが好きで上手になりたいという願望とスライスになる幾つかの原因について理解しているからです。それでは、経営についてはどうでしょうか?

「売上げが伸びない」「利益が出ない」等、の事象が発生したときにスライスの原因と同じように考える判断材料(基準)があるのでしょうか?

本日、話をさせていただく「日本経営品質賞」とは『卓越した業績を継続して上げ続ける仕組みを有する企業を表彰する制度』で、「日本経営品質賞」のなかに経営が上手い/かかない時の判断材料となるヒントがあるかもしれません。今日の話が皆さんの今後の経営の一助となれば幸いです。

「日本経営品質表」の歴史について簡単に説明すると、1987年にアメリカでマルコム・ボルドリ

ッジ国家品質賞(MB賞:第1回の受賞は1988年)という賞が作られ、その賞を研究し1995年に日本版に修正したものです。しかしMB賞は元々日本にあったデミング賞やドイツの優良企業を研究した末、完成した国家品質賞で、日本にとってはデミング賞(日本)⇒MB賞(アメリカ)⇒日本経営品質賞と逆輸入した形となります。

現在では世界的80カ国でこのMB賞をベースとした賞が作られており、日本では(財)社会経済生産性本部内に日本経営品質賞委員会を設けて運営されています。また、日本経営品質表をベースに国内の都道府県でも地方賞(例えば、関西経営品質賞・徳島県経営品質賞といった具合)が作られています。

では、「日本経営品質賞」についての大枠をご説明します(詳しくは別途資料に記載)。まず、企業にとっての「ありたい姿」を考え、その「ありたい姿」と現状のギャップを企業の変革課題として浮き彫りにします(組織プロフィールというものを作成)。

次にその変革課題を克服するための改善活動を実践するわけですが、闇雲に改善活動をするのではなく、「日本経営品質賞」では経営について、8つ大項目と20の仕組み(小項目)に分解して捉えています。

8つの大項目は、1.「経営幹部のリーダーシップ」、2.「経営における社会的責任」3.「顧客・市場の理解と対応」、4.「戦略の策定と展開」、5.「個人と組織の能力向上」、6.「顧客価値創造のプロセス」、7.「情報マネジメント」、8.「活動結果」から構成されています。また、この大項目には20の仕組み(小項目)が存在し、前述した「グリップ」「体の開き」「スタンス」等に相当するもので、その各項目についてPLAN⇒DO⇒CHECK⇒ACTIONを実践するようになっています。

これは簡単に思えて大変難しいものですが、そもそも経営もゴルフもそんなに簡単なものではないということだと私は理解していますが、信じて実践すれば業績は必ず上がると信じています。

現在はサブプライム問題に端を発し「百年に一度」と言われる世界同時不況の真っ只中。自社の経営を見直す機会として「日本経営品質賞」にご興味があれば何なりとお申し付けください。「日本経営品質賞」とは研究すればするほど良くできた仕組みであると思えてきます。

アドレス <http://www.jpac.com>からは様々な情報や日本経営品質賞に関する書籍の購入も可能です。

ご清聴ありがとうございました。